

杉享二

すぎ・こうじ

蘭学者、統計学者

経歴

生: 文政11年(1828年)、肥前国長崎生まれ

没: 大正6年(1917年)12月4日、享年90歳

幼少時	—	両親と死別し祖父杉敬輔に育てられる
—	—	長崎において緒方洪庵・村田徹斎らに経書を学ぶ
—	—	江戸において杉田成卿について蘭学を修める
—	—	勝塾の塾頭を勤める
—	—	阿部正弘公の侍講
万延元年(1860年)	32歳	蕃書調所教授方手伝
元治元年(1864年)	36歳	蕃書調所教授方並
—	—	徳川家の駿河移封に従って駿府に移住
明治2年(1869年)	41歳	沼津兵学校二等教授としてフランス語を教授
明治3年(1870年)	42歳	民部省十二等出仕
明治4年(1871年)	43歳	太政官大主記
明治4年(1871年)	43歳	「辛未政表」を完成
明治7年(1874年)	46歳	太政官政表課長
明治12年(1879年)	51歳	山梨県一円の国勢調査
明治14年(1881年)	53歳	統計院大書記官
明治18年(1885年)12月	57歳	統計院の廃止により大書記官を辞任
—	—	明六社社員として幾多の学術論文を発表
—	—	学士院会員
明治36年(1903年)	75歳	法学博士
—	—	正五位勲二等

生い立ちと学業、業績

通称は、純道・享二。幼少のころ両親と死別し、祖父杉敬輔に育てられた。統計学創始者。

当時長崎にいた緒方洪庵・村田徹斎らに経書を学び、また徹斎の江戸勤番に従って出府し、杉田成卿の門に入って蘭学を修めた。この間勝海舟と知り合い、勝塾の塾頭をも勤めた。

やがて勝の推挙により阿部正弘公の侍講となり、万延元年(1860年)蕃書調所教授方手伝となり、元治元年(1864年)同教授方並に進んだ。

この時西洋に統計学のあることを知り、日本におけるその必要性を痛感したが、徳川家の駿河移封に従って駿府に移住すると、府中奉行中台信太郎を説き、府内においてわが国初の統計(政表)調査を行った。

明治2年(1869年)沼津兵学校二等教授となり、フランス語を教えた。

明治3年(1870年)民部省十二等出仕となり、明治4年(1871年)太政官大主記に任じ、政表のことを統轄した。

そして各官庁に通告して政表報告を集め、「辛未政表」を完成した。

明治7年(1874年)太政官政表課長に任じ、明治12年(1879年)山梨県一円の国勢調査を実施した。

明治14年(1881年)統計院が設置され、大書記官に任じ、明治18年(1885年)12月の同院廃止により辞任した。

学者としては、明六社社員として幾多の学術論文を発表し、学士院創立とともに会員に推挙された。

明治36年(1903年)法学博士。正五位勲二等に叙された。晩年失明し、九〇歳の高齢で卒した。

出典1:『杉先生講演集』、世良太一編、横山雅男刊、明治35年8月 [国立国会図書館デジタルアーカイブポータル]

出典2:『明治維新人名辞典』、521頁、「杉享二」、日本歴史学会編、吉川弘文館刊、昭和56年9月10日

出典3:『福山藩の教育と沿革史』、152頁、「杉純道」、清水久人著、鷹の羽本部阿部正弘公顕彰会刊、1999年8月20日